

2008年11月4日
独立行政法人情報処理推進機構

「第7回北東アジア OSS 推進フォーラム in 無錫」を開催

独立行政法人情報処理推進機構（略称：IPA、理事長：西垣 浩司）及び日本 OSS 推進フォーラム（代表幹事：日本電気株式会社 代表取締役 執行役員社長 矢野 薫）は、オープンソースソフトウェア（OSS）の活用を促進するため、2008年10月30日（木）～31日（金）の2日間にわたり、中国無錫市において開催された「第7回北東アジア OSS 推進フォーラム」に共催団体として、参加しました。日本・中国・韓国の産業界、研究機関、大学、政府関係者など約200名の参加がありました。なお、次回フォーラムは、来年東京で開催することが合意されました。

北東アジア OSS 推進フォーラムは、日本 OSS 推進フォーラム、中国 OSS 推進連盟、韓国 OSS 推進フォーラムが協調して、OSS の普及・発展に向けた活動を行っています。全体会合では、各国のフォーラム代表者による基調講演、ワーキンググループ（WG）の活動報告、OSS 関連の最新事情の情報交換、各国で選ばれた OSS 貢献者の共同表彰等が行われました。



第7回北東アジア OSS 推進フォーラムでは、日中韓のフォーラム参加者が各WGから報告された成果と今後の計画に基づき、次の点を合意しました。

- ・ 日中韓の協力関係とその精神は、フォーラム開始以来、着実に強化されてきており、価値のある成果を実現し始めていること。
- ・ 詳細な協議に基づき、日中韓は協力して、OSS 開発のためのキーとなる共通課題の研究と解決に取り組む。
- ・ フォーラムは3つのWGの活動の奨励と強化を継続する。
- ・ 第8回北東アジア OSS 推進フォーラムは、日本の東京で開催する。日程に関しては、中国、韓国と協議して、日本が決定する。

3つのWGからの報告された主な活動成果と今後の計画は、以下のとおりです：

1. WG1:技術開発・評価

①OpenDRIM プロジェクトは、2008年12月に「OpenDRIM 2008suite」をリリースする。本プロジェクトは、市場ニーズに対応して、オープンな標準に基づく新機能の開発と「OpenDRIM 2009suite」への統合を継続し、2009年開催の次回フォーラムまでにリリースする。

②Crackerjack プロジェクトは、2008年4月に273のシステムコール・テスト機能を持つ「Linuxカーネル互換性テストツール第2.0版」をリリースした。本プロジェクトは、全部で300のシステムコール・テスト機能の開発と改良を継続し、2009年に「Linuxカーネル互換性テストツール第3.0版」をリリースする。特に、本プロジェクトはLTP (Linuxテスト・プロジェクト)やAutotestのような世界的なテスト・コミュニティとの強固な協力を行うよう努力する。

③セキュリティ・プロジェクトは、セキュアOSの監視・操作を行うためのOSSセキュリティ・モジュールを開発し、2008年3月に成果をリリースした。

④WG1の今後の活動方向については、日中韓の協力から、世界的なコミュニティへの貢献に転換していくことを確認した。

2. WG2:人材育成

①WG2は2007年12月に「北東アジアOSS人材育成に関する報告書(ドラフト第1.0版)」を策定し、2008年10月に報告書第1版として公表した。WG2はOSS関連スキルセット及びスキルレベルを含む分析成果の改善を継続する。

②WG2は本会合において、「北東アジアOSS人材育成に関するモデルカリキュラム(ドラフト第1.0版)」を策定し、パブリック・コメントを募集するために公表することに合意した。WG2は日中韓のモデルカリキュラム改良及びOSS専門家の相互認定スキームについて、議論を継続する。WG2はフォーラム又はWG2の名称で公表する文書について、全員一致の決定プロセスを採用する。

③WG2は本会合において、OSS教科書の出版を奨励する最初のステップとして、OSS教科書の展示会を開催した。

④WG2は技術、コミュニティ、戦略分野におけるOSS人材開発を促進するために、「日中韓OSS賞」と「日中韓OSS特別貢献賞」の授与を継続することを合意した。

3. WG3:標準化・認証研究

①WG3は「入力メソッドエンジン・サービス・プロバイダ・インターフェース仕様書」(以下、IME-SPI仕様書)を完成し、これを承認した。IME-SPI仕様書は、中国語、日本語、韓国語を含む複数の言語を処理するための共通入力メソッドの開発者にとって、有益であることが期待されている。

②WG3は2007年に「ウェブの相互運用性の問題に関する報告書」を公表した。また、WG3は「ウェブの相互運用性問題の解決策に関する報告書」を完成した。

③WG3は世界のコミュニティに情報提供を行うために、「北東アジアOSS推進フォーラム・ウェ

ップページ」

から各報告書を公開する。

④WG3は北東アジア各国の共通的な関心事項を探索することを目的として、今後のWG3活動を検討するタスクフォースを設置し、共通関心事項、プロジェクトの提案等を行う。タスクフォースは活動成果として、報告書を提供する。

以 上

■本件に関するお問い合わせ先

独立行政法人情報処理推進機構 オープンソフトウェア・センター 杉原井／大内

Tel: 03-5978-7507 Fax:03-5978-7517 E-mail: ossc-info@ipa.go.jp

■報道関係からのお問い合わせ先

独立行政法人情報処理推進機構 戦略企画部広報グループ 横山／大海

Tel: 03-5978-7503 Fax:03-5978-7510 E-mail: pr-inq@ipa.go.jp

北東アジア OSS 推進フォーラムは、2004 年 4 月に北京で第 1 回フォーラムを開催し、今回は第 7 回目の開催に当たります。これまでの経緯は、以下のとおりです。

第 1 回	北京	2004 年 4 月	OSS の普及・発展に向けて協力してゆくことに合意
第 2 回	札幌	2004 年 7 月	共同の取り組みをテーマ毎に検討するためのワーキンググループ（技術開発・評価、人材育成、標準化・認証研究の 3 つの WG）の設置に合意
第 3 回	ソウル	2004 年 12 月	各 WG の具体的な活動内容に合意
第 4 回	天津	2006 年 4 月	各 WG の活動目標、サブワーキンググループ、タスクフォースの設置に合意。 <u>技術開発・評価 WG</u> ・共同検討を行うサーバー-SWG とデスクトップ SWG の設立 <u>人材育成 WG</u> ・OSS 技術者のスキル認定、教育カリキュラムを検討するタスクフォースの設立 <u>標準化・認証研究 WG</u> ・入力メソッドエンジン SPI*1 標準仕様案のドラフト目標の設定、WEB の相互運用性 SWG の設立、組み込み関連課題の研究 *1: <u>Service Provider Interface</u>
第 5 回	福岡	2006 年 11 月	各 WG において具体的な共同プロジェクト、調査テーマに合意。 <u>技術開発・評価 WG</u> ・サーバー-SWG : ①サーバーリソース管理ツール (OpenDRIM) *2、②Linux カーネル互換性テストツール (Crackerjack)、③DBMS の性能評価 ・デスクトップ SWG : ①OSS デスクトップ Linux 導入促進ロードマップ、②専用端末向け Linux デスクトップ調査 <u>人材育成 WG</u> ①モデルカリキュラムの段階的な共同作成、②コースウェアの共同開発、③各国の試行プログラムの実施結果 <u>標準化・認証研究 WG</u> ①入力メソッドエンジン・インターフェース仕様書、②ウェブ (WWW) の相互運用性の研究 *2: <u>Distributed Resources Information Management</u>

第6回	ソウル	2007年9月	<p>各 WG において具体的な共同プロジェクト、調査テーマの成果の確認と今後の計画に合意。</p> <p><u>技術開発・評価 WG</u></p> <p>・サーバーSWG :</p> <p>① サーバーリソース管理ツール(OpenDRIM) *1 は、2007年9月に「OpenDRIM 2007 suite」をリリースし、新機能を追加した「OpenDRIM 2008 suite」を2008年にリリースする。</p> <p>② Linux カーネル互換性テストツール(Crackerjack)、2007年9月にLinuxカーネルの133のシステムコールに対応した互換性テスト関数をリリース。今後も開発を継続。</p> <p>③ DBMS の性能評価は、2007年4月に評価結果をリリースした。今後も、評価作業を継続し、各国でのOSS DBMS の普及を促進する。</p> <p>・デスクトップSWG :</p> <p>④ OSS デスクトップの利益をユーザに理解させる方法を議論する。(TF1)</p> <p>⑤ サーバーと組み合わせたデスクトップの普及促進へと活動を拡大し、政府／公共サービスのウェブ・サイトを評価する可能性を議論する。(TF2)</p> <p>⑥ デスクトップSWG とサーバーSWG を一つに統合。</p> <p><u>人材育成 WG</u></p> <p>① 2007年12月までに「北東アジア OSS 人材育成に関する報告書(第1版)」を公表し、OSS スキルセットおよびスキルレベルの整合性等を分析する。</p> <p>② 究極的には、WG2 は、OSS モデルカリキュラムを完成させ、OSS 専門家の相互認定の実現に向けた議論を継続。</p> <p><u>標準化・認証研究 WG</u></p> <p>① 「入力メソッドエンジン・インターフェース・サービス・プロバイダ仕様」のドラフト第2版を策定し、2008年中に仕様を公開する。</p> <p>② 「ウェブの相互運用性の問題に関する報告書」を策定し、2007年中に公開する。また、ウェブの相互運用性上の問題の解決法も報告する</p> <p>*1: <u>Distributed Resources Information Management</u></p>
-----	-----	---------	---